

平成26年度第2回弘前市まちづくり1%システム審査委員会 会議録概要（1日目）

日 時：平成26年9月20日（土）

午後1時～午後4時50分

場 所：弘前図書館2階視聴覚室

出席者：審査委員 檜楨委員長（事業番号1から出席）、島委員、清藤委員、西川委員、
小友委員、高森委員、木田（直）委員、木田（多）委員、
工藤委員、宮川委員、長内委員、小林委員
※3名欠席（鴻野委員、齋藤（秀）委員、齋藤（き）委員）
市民協働政策課 大澤課長、三上補佐、白戸主幹、櫻庭係長、對馬主査、阿保主事
齋藤主事、成田主事

1 公開プレゼンテーション・審査会

<プレゼンテーション・審査方法>

- ・1事業ごとに公開プレゼンテーション・審査を実施。（審査は採点方式によって決定。）
ただし、申請金額が20万以下の事業については、公開プレゼンテーションへの参加を申請団体の任意とする。事業説明を希望しない場合は、申請書類と事務局の事業説明により審査を実施する。
- ・審査委員が申請団体に所属する場合は、プレゼンテーションから審査まですべて外れる。

（公開プレゼンテーション有）

1. プレゼンテーション …15分程度
（7分以内で事業内容の説明。残り時間で質疑応答。）
2. 審査 …20分程度
（事業内容・金額について審議後、採点表に記入。）
3. 採点結果発表 …採点表集計後、休憩ごとにまとめて発表。

（公開プレゼンテーション無）

申請団体によるプレゼンテーションを省略し、1事業につき15分程度とする。

【審査項目】

審 査 項 目	
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない
	② ひろく不特定かつ多数のための利益増進のものとなっている
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえている

	④ 市民ニーズに対応する解決策として有効なものとなっている
実現性	⑤ 計画や予算が具体的で、事業の実施手段や体制などが合理的である
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性が期待できる
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる
費用の妥当性	⑨ 事業の内容・規模に合った予算になっている
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる

【審査採点】

区 分	評 価
審査項目に合致している	10点
やや、審査項目に合致していない部分がある	5点
審査項目に合致していない	0点

【決定方法】

採択…出席委員の合計の平均点が60点以上、かつ、各審査項目の平均点が3点以上

《審査内容》

●7：ひろさきを絵手紙にして知ってもらおう

ワークショップ「こころを伝える ひろさき絵手紙展」／津軽ひろさきマーチング委員会

【質疑応答（抜粋）】

Q：弘前をイラストでPRするために、手段として絵手紙を選んだ理由を教えてください。また、絵手紙を描いてもらった後の取り組みについてどのように考えているか。

A：メールやホームページ等がたくさんある中で、手描きの絵手紙をもらった人が弘前に行きたくなるのではないかと思い、絵手紙という手段を選んだ。今回は絵手紙を描いた人に、手紙を送ってもらうことも考えている。

Q：今年は東京在住の講師に依頼しているが、市内・県内の講師謝礼や交通費が安い人に講師を依頼して、独自性を持ちながら事業を展開していくことについては考えているか。

A：常に1%システムに頼っているわけにはいかないなので、地元の先生を探して一緒にやって行きたいと考えている。

Q：弘前市民が大事な街並みや風景を自分で描き、外部に発信していくきっかけの部分を目指した事業だと感じるが、今後どのような事業展開を考えているか。

A：イラスト展示だけであれば経費はあまりかからないので、場所を確保してイラストに触れてもらう機会を多く作りたい。また、市内・県内の絵手紙や水彩画等の先生にも協力いただいてワークショップを開催する形で少しずつ広げていきたい。

Q：将来的に、地域にある建物や文化的なものを題材としたときに、その建物に近い場所でワークショップを行うなど、外で事業を開催するようなことは考えられるか。

A：今後、カルチャアロードを含め、人の集まる場所に向いて行く活動をしていきたい。

【主な意見】

- ・この事業には、イラストを広めていく部分と、イラストを外に発信していく部分の2つの視点がある。写真で見る生々しさとは違った、少し柔らかいタッチのイラストに触れることで、弘前を見てもらうきっかけができると思う。
- ・去年のような大きな画用紙でなく、もう少し手近で小さな「絵手紙」を描くことによって、遠く離れて暮らす友達や家族などに送るという活用の仕方ができる。また、当団体がこの事業に取り組むことで、弘前のまちの風景を単に市内で発信するだけでなく、全国のマーチング委員会で行われる事例発表の場で発信できるという期待がある。
- ・予算については、去年よりも補助金を少なく要求しており、ずっと補助金に頼るのではなく、自分たちでやって行こうという気持ちが見えている。

【採択結果】

合計点 79.1点 \geq 60.0点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 11名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	7.3
	② ひろく不特定かつ多数のための利益増進のものとなっている	6.8
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえている	7.7
	④ 市民ニーズに対応する解決策として有効なものとなっている	7.3
実現性	⑤ 計画や予算が具体的で、事業の実施手段や体制などが合理的である	8.2
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	9.1
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性が期待できる	8.2
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	7.7
費用の妥当性	⑨ 事業の内容・規模に合った予算になっている	9.1
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	7.7
合計		79.1

● 1：通学路等における児童の見守り活動／堀越子ども見守り隊

【質疑応答（抜粋）】

Q：堀越学区では、見守り隊が作られる以前に、見守り隊を作らなければならないような背景があったのか。

A：学区内で事件や事故があったというわけではないが、一般的なニュース等を見聞きして、堀越学区もこのままではいけないのではないかと自分たちの思いから出発した。市内でも声掛けの事案などがあると、緊急メールで送られてくるので、このような活動は必要であると感じている。

Q：このような見守り活動は、全市的に広まると考えているか。

A：これから見守り隊のような組織を作ろうという方からも問い合わせが来ているので、全市的に広がると思う。

Q：交通安全委員会という組織があるが、一緒に活動することはあるか。

A：交通安全週間に一緒に協力して活動している。交通安全委員もなかなか手がなく、高齢化しているのが現状である。組織同士協力して、とまではいかないが、交通安全委員会のメンバーの中から個人的に見守り活動に参加している人はいる。

Q：実施場所や活動した日数、参加した人数を教えてください。

A：学校から会員へ、交通安全に特に配慮するときにメールを送るため、夏休み明け、冬休み明けが特に参加者が多く、約30人集まる。そのほか、不審者が出たという情報があった時、低学年の子どもを送迎時や犬の散歩時など、日常からベストを着用して視覚的に訴えている。

【主な意見】

- ・当番制にするなど組織的に縛らずに、犬の散歩時等にみんながベストを着ているだけで活動に参加できているので、活動が長く継続できると思う。
- ・ベストのマークや標語を子どもたちに募集し、子どもたちを巻き込むことで親が巻き込まれ、活動が広がって行くのが良いと思う。
- ・今年度の事業ではステッカーを作成して、会員の自動車に貼付しパトロールを行うとあるが、この取組は地域を越えた波及効果が期待できると思う。会員同士メールなどで情報共有がなされているので、今後ベスト着用者同士が顔を合わせる機会が増えれば、児童の見守りとともに地域同士のつながりが形成されることに期待している。

【採択結果】

合計点 94.2 点 \geq 60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 12 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	9.6
	② ひろく不特定かつ多数のための利益増進のものとなっている	9.6
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえている	10.0
	④ 市民ニーズに対応する解決策として有効なものとなっている	9.2
実現性	⑤ 計画や予算が具体的で、事業の実施手段や体制などが合理的である	7.9
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	10.0
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性が期待できる	9.6
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	9.2
費用の妥当性	⑨ 事業の内容・規模に合った予算になっている	9.2
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	10.0
合計		94.2

● 2 : 豊田小学校通学路排雪事業／豊田小学校父母と教師の会

【質疑応答 (抜粋)】

Q : 行政ではなかなかやり切れない部分を自分たちで除雪する活動だが、この活動を続けていくために、どのようなことを考えているか。

A : 昨年度はPTA全体に声掛けをした結果、意識の高いお父さんたちが十数名集まってくれた。この事業は、トラックを運転する人、除雪機を動かす人、誘導する人の少なくとも3人いれば実施できるが、安全面の精度を高めるためには続けていって経験を積むしかない。また、行政で行うことが難しい部分を、コミュニティを作って作業を振り分けていくことで補うことができるという思いもある。実際に、1%システムを利用して除雪作業を行っていることを知り、除雪業者が排雪場への道路を除雪してくれていたりと、看板を見かけた人の中で、誰かがやっているのだからみんなでやった方がいいのではないかという思いが起こってきている。

Q : 昨年度実施の事業の中では、弘前医療福祉大学ボランティアサークルの応援があったとのことだが、どのようなきっかけで学生が関わることになったのか教えていただきたい。

A : 学区内に大学があるということで学生が周辺の道路を通ることもあり、豊田小の教頭先生の大学内にいる知り合いに声掛けしたところ、ボランティアとして参加してくれた。

Q : 市で貸し出している除雪機を活用する予定はあるか。

A : 市の除雪機は他の町会等でも借りており、大雪の時に借りようとして丁度よく借りられない可能性があるため、地域が自前で用意した方がいいと考えている。除雪機を購入するための助成制度はあるが、制度の対象が町会などでPTAは対象外だったので、町会で買ってもらい、PTAで運営していくことも今後の方法として考えていきたい。

【主な意見】

- ・待っていても進まなかったであろうことを、まずやって見せることによって人を動かし、共感や評価を得たのだと思う。町会が動くことによって使うことができる制度もあるので、地域で除排雪をするような流れになってほしい。
- ・市内の大学では、除雪のボランティア活動が行われているので、そのような活動と一緒に事業を進めていっていただきたい。
- ・備品としてトランシーバーを購入する経費を計上しているが、トランシーバーを活動回数に合わせて5回レンタルするとなると経費や手間もかかるので、購入することはやむを得ないと思う。

【採択結果】

合計点 90.0 点 \geq 60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 12 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	8.8
	② ひろく不特定かつ多数のための利益増進のものとなっている	10.0
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえている	10.0
	④ 市民ニーズに対応する解決策として有効なものとなっている	9.6
実現性	⑤ 計画や予算が具体的で、事業の実施手段や体制などが合理的である	7.5
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	8.3
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性が期待できる	8.3
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	8.8
費用の妥当性	⑨ 事業の内容・規模に合った予算になっている	8.8
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	10.0
合計		90.0

● 9：農の魅力、子どもに発信！／弘前大学財政ゼミナール

【質疑応答（抜粋）】

Q：ハンドブックやアンケートの内容について詳しく教えていただきたい。

A：ハンドブックは、作成する紙芝居の内容と、小かぶを使ったレシピ、子どもたちに対して食に関するメッセージを盛り込みたい。アンケートでは、冊子を見た子どもやその家族が、どの程度農業や野菜に興味を持ってくれたか、将来農業に従事したいという思いが生まれたかなどを確認したい。

Q：事業の目的の一つとして「農業後継者不足解消」を挙げているが、冊子配布とアンケ

一トの対象として選定したのが文京、大成、桔梗野小学校である。対象として農村地域の小学校ではなく、農業従事者が少ないであろう市街地に近い小学校を選んだ理由を教えてください。

A：この活動の主な目的は食育で、最終的に後継者不足の方向につなげていきたいため、大学周辺の取り組みやすいところから活動をしていきたいと考えている。

Q：子どもたちの野菜不足について、食事を作る親世代への働きかけについてどのように考えているか。

A：作成するハンドブックの中に、小かぶを使った料理を掲載する予定である。子どもたちに配布した冊子を家に持ち帰ってもらい、親子と一緒に野菜を使って料理することを促進したいと考えている。

Q：これまでさまざまなところで行われてきた食育や農業体験と申請事業の違いや、事業で得られる効果について教えてください。

A：子どもたちは幼稚園や小学校で芋ほりやりんごの収穫などの体験をしても、楽しんで終わってしまう可能性があると考えている。そのため、紙芝居やハンドブックを通し、子どもたちの心に残るように伝えていきたい。

【主な意見】

- ・今年には農業に対する意識が希薄で農業に触れる機会が少ないまちなかの小学校を対象としているので、次に農作業体験等のある農村地域の小学生を対象に事業を行えば、専攻の財政的な分析力を発揮できると思う。これらを比較して、地域の差や年代、親の職業によつての野菜等食べ物に対する価値観の違いが出てくれば、大学生が取り組む意味が出てくると思う。
- ・ハンドブックの作成やアンケートを通して学生がさまざまなことに気付き、財政学を学びながら農業に接することで新たな化学反応を起こしてほしい。
- ・1%システム採択団体のあんよ・せらびー共育研究会をはじめ、さまざまな人との関わりでステップアップしている印象を受けた。1%システムの申請団体同士の関わり合いが見えてきたことが特徴的だと思う。

【採択結果】

合計点 66.3 点 \geq 60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 12 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	6.3
	② ひろく不特定かつ多数のための利益増進のものとなっている	5.4
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえている	7.1
	④ 市民ニーズに対応する解決策として有効なものとなっている	6.3
実現性	⑤ 計画や予算が具体的で、事業の実施手段や体制などが合理的である	5.8
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	7.5
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性が期待できる	7.1
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	6.3
費用の妥当性	⑨ 事業の内容・規模に合った予算になっている	8.3
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	6.3
合計		66.3

● 8 : とともに生きる精神障がい者の理解・普及・交流会「松本ハウスがやってくる」
 ～笑って学ぼう精神疾患～／津軽地域精神障がい者社会復帰支援連絡会
 【質疑応答（抜粋）】

Q : 精神障がい者を対象にした講演会なのか。

A : 精神障がい者も含めた一般市民が対象である。精神疾患にはたくさんの症状があるが、日常生活を送っている人はたくさんいることを、今回の講演会を通じていろんな方に理解してもらいたいと思う。

Q : 松本ハウスによる2時間の講演は、どのような内容になるのか。

A : 彼らはお笑い芸人なので、統合失調症の経験者として統合失調症を少しわかりやすくした、笑いも取れるネタを披露してもらおう。また、ハウス加賀谷さん自身の疾病経験と、松本キックさんの精神障がい者の方とどう接してきたかという体験を話してもらおうと考えている。いろいろなサポートを得ながら障がいを乗り越え、頑張ってお笑い芸人を続けているという成功体験談を通して、一般市民の方の理解と、精神障がいがあっても、いろんなことができることを強くアピールできると思う。

Q : 今回の事業を行うことに関して、関係者の合意は得ているのか。

A : 精神障がい者の中には、自分たちが街に出ていくためには、精神障がいのことを知ってもらわなくてはならないと思っている人もいるし、そうでない人もいる。私たちが、障がい者が外に出ても大丈夫だと思う環境を作って行かなければならないと思う。現在精神障がい者に関連する10施設ほどに声掛けをしており、参加してもらえるところには施設紹介などしてもらいたい。

【主な意見】

- ・精神障がい者とどのように接していいのかわからないがために交流をためらうということがあると思うので、精神障がいの人との接し方を学ぶ場として、お笑いという楽しい入りから堅い話に持って行くという内容は良いのではないかと思う。
- ・地域包括ケアは国でも推進しており、将来的には地域の住民が障がい者と共に生活できるような環境づくりが提案されている。障がい者に対する私たちの捉え方や接し方を学ぶ場として、今回の取り組みはとても意味があると思う。
- ・来年度以降どのように市民の意識改革を続けていくのかを打ち出すことができればなお良いと思う。
- ・このような活動をするのはとても大事なことで、自分たちだけが楽しむことにならないように、たくさんの市民が参加しやすいような体制を上手く作っていただきたい。

【採択結果】

合計点 81.3 点 \geq 60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 12 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	8.8
	② ひろく不特定かつ多数のための利益増進のものとなっている	7.9
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえている	7.9
	④ 市民ニーズに対応する解決策として有効なものとなっている	7.9
実現性	⑤ 計画や予算が具体的で、事業の実施手段や体制などが合理的である	7.5
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	8.8
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性が期待できる	7.1
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	9.2
費用の妥当性	⑨ 事業の内容・規模に合った予算になっている	7.9
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	8.3
合計		81.3

9月20日審査結果（16事業のうち5事業）

採択とする事業	5事業
不採択とする事業	0事業

平成26年度第2回弘前市まちづくり1%システム審査委員会 会議録概要（2日目）

日 時：平成26年9月21日（日）
午前10時～午後4時01分
場 所：弘前図書館2階 視聴覚室

出席者：審査委員 檜垣委員長、鴻野委員、齋藤（秀）委員、清藤委員、西川委員、
小友委員、高森委員、木田（直）委員、木田（多）委員、
工藤委員、宮川委員、長内委員、小林委員
※2名欠席（島委員、齋藤（き）委員）
市民協働政策課 大澤課長、三上補佐、白戸主幹、櫻庭係長、對馬主査、阿保主事
斎藤主事、成田主事

1 公開プレゼンテーション・審査会 9月20日に引き続き審査

《審査内容》

●4：青少年健全育成・地域づくり・地域世代間交流事業

「第1回 津軽の伝統文化と昔の遊びに触れてみよう」／時敏地区青少年育成委員会

【質疑応答（抜粋）】

Q：子どもたちに体験してもらおう津軽の伝統文化の中に、茶道や生け花が含まれている。茶道や生け花は日本の伝統文化ではあるが、津軽の伝統文化として捉えている点について説明をいただきたい。

A：江戸時代の津軽弘前藩において、茶道は藩の習いものに含められていた。また、時敏地区には茶道の師範をしていた人が住んでいたこともあり、茶道は時敏地区と切っても切れない文化である。生け花については、行事があるごとに池坊のお花が城内に飾られていたこともあり、宗家が数年に一度来弘するという、全国的にも珍しい流れをくんでいる。そのため、子どもたちには茶道や生け花について伝えていきたいと思い、事業に組み込んでいる。

Q：事業を実際に行うのは1日だけだが、例えば実施日の前に子どもたちが初めて見るような遊び道具に慣れる、準備期間をつくるなど、この事業を定着させていくための流れについて何か考えていることはあるか。

A：時敏地区を含め、弘前市内の子ども会でいう日常活動で、子どもたちに何をしてあげたらいいのかが課題となっている。その中で、本事業には子どもたちの行事として、日常化できるものを、大人も一緒に学んでほしいというねらいがある。今回は極めて短時間にさまざまな文化や遊びを体験してもらっただけだが、子どもたちがどのような反応を示すか、何が一番興味を持つかを大人もしっかり学びたい。このようなことを重ねることで定着を

図り、日常的な活動に生かすことができ、いずれは本事業を全市に広げていくこともできると考えている。

Q：事業実施日を10月18日としたのは、時敏小学校の記念式典等があるためか。

A：時敏小学校の行事とは別物で、あくまでも時敏小140周年を契機に、さらに10年後まで何が継続できるか、どのように子どもたちに定着させていくものができるかということで発案した事業である。時敏小の児童に限らず、時敏地区の子どもたちに来てもらうことになるので、校舎全体を借りることができる日を教頭先生に検討してもらい、日にちを選んでいる。

【主な意見】

- ・短時間で盛りだくさんな内容のため、もう少し余裕が欲しいが、今回は初めての試みなので、次回以降は余裕を持った内容で継続されていくのではないかと思います。
- ・全国的に子ども会への対応が弱くなっている状況の中で、先立って新しい動きを作るということは意義があることなので、継続して行っていただきたい。
- ・講師等謝礼が総事業費の約60%という点が気になるが、出演者の顔ぶれを見ると、時間単価の約5分の1になっているため、致し方ないことだと思う。また、遊び道具など借りられるものは借りていて、経費の節減に努めていると思う。

【採択結果】

合計点 82.7 点 \geq 60.0 点 ⇒採択

※審査委員 13 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	8.5
	② ひろく不特定かつ多数のための利益増進のものとなっている	7.3
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえている	8.8
	④ 市民ニーズに対応する解決策として有効なものとなっている	7.7
実現性	⑤ 計画や予算が具体的で、事業の実施手段や体制などが合理的である	8.1
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	9.2
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性が期待できる	8.8
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	8.5
費用の妥当性	⑨ 事業の内容・規模に合った予算になっている	7.7
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	8.1
合計		82.7

【質疑応答（抜粋）】

Q：学童保育を行うような施設は、相馬地区にはあるのか。

A：相馬小学校では、空き教室を利用してなかよしクラブが実施されており、小学校3年生までは参加できるが、小学校4年生以上はスポーツ少年団の活動に参加している子ども以外は家に帰らないといけなにかたちになっている。

Q：集会所の利用率はどのくらいか。

A：現在は、外部の方による週に1回の書道教室と、町会の自主的な活動をしている方たちの活動につき10日ほど活用されている。各々が利用するときだけ集会所を開けているので、いつでも誰でも自由に使えるという状態ではない。

Q：集会所の開放の対象は、子どもなのか町会の住民全体なのかを教えてください。

A：集会所が開設された当初は、これだけの集会所を作ってもらったのだから有効に使おうという町会の声があった。町会の子どもからの「ここは集会所であって公民館ではない」という発言が印象に残り、これまで数回は子どもたちを対象に開放してきたが、これからは、子どもだけでなく大人も楽しむことができるプログラムを考えたいと思う。

【主な意見】

- ・当面月2回あるいは毎週の目標で集会所を開放することは良いことなので、継続していくために、地域の中からのニーズが出てくるようにしていただきたい。
- ・今後、地域の人たちが自ら集会所の開放や運営ができるようにすることを考えるのであれば、地域の住民を対象に、子どもたちと一緒に遊んだりコミュニケーションを取りながら、みんなで楽しめる環境作りが必要だと感じた。
- ・町会内にも、さまざまなノウハウを持った年配者がいるので、そのような人たちを刺激しながら上手く巻き込んでいくことができれば、事業がもっと進むのではないかと思う。
- ・目的は集会所の開放というよりも、地域の動きが悪くなっている状況の中で、集会所を自由に使えるようにすることから地域全体が動き始めるのではないかという思いから、この事業を一つのきっかけにしたいのではないかと思う。

【採択結果】

合計点 61.5 点 \geq 60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 13 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	6.5
	② ひろく不特定かつ多数のための利益増進のものとなっている	6.9
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえている	8.1
	④ 市民ニーズに対応する解決策として有効なものとなっている	4.6
実現性	⑤ 計画や予算が具体的で、事業の実施手段や体制などが合理的である	6.2
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	5.8
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性が期待できる	5.4
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	5.8
費用の妥当性	⑨ 事業の内容・規模に合った予算になっている	6.9
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	5.4
合計		61.5

● 13：文化周知のためのイベント開催／ういつちたいむ！！実行委員会

【質疑応答（抜粋）】

Q： イベント当日に行うことを具体的に教えていただきたい。

A： 早い時間に講師を招いてフォーラムを開催する。その後同じ会場で、さまざまな分野のアーティストがポップカルチャーにフォーカスを当てて作成した作品を展示する予定である。

Q： どのような年齢層が参加すると想定しているか。

A： ポップカルチャーを軸とした内容で伝統工芸などの作品を展示する予定なので、主にポップカルチャーの愛好世代である若年層を想定しているが、興味本位でちょっと覗いてみたいという、より上の世代の集客も見込んでいる。

Q： 参加者総数を500人と見込んでいるが、会場が手狭な印象があるので、会場へのこだわりの部分を教えていただきたい。

A： 夜間まで借りることができること、音響設備が整っていること、コスプレの参加者が着替えることができる更衣室があること、以上3つの要件が整っている施設ということで会場を選んだ。当日混雑することが予想されるが、運営上危険があったり、差し障りがあると判断する場合は入場制限を行うなど、対策を取りたいと考えている。

【主な意見】

- ・ 県内でも、佐井村では仏ヶ浦のロケーションがコスプレイヤーに人気があり、写真の撮影会から派生して、アニメフェスティバルが開催されるなど、アニメから地域が盛り上がる事例があった。弘前も洋館など地域の特質を生かし、アニメを通して波及効果が期

待できる。

- ・ファッションや音楽、アート、教育と、一つのイベントに多くの要素が詰め込まれているので、一つの会場に足を運んで、思った以上の収穫を得られる可能性がある。
- ・我々の世代が全く気付いていない、理解できていないことに若い世代が価値観を求めているという状況を認識し、認めることが必要だと思う。

【採択結果】

合計点 68.1 点 \geq 60.0 点 \Rightarrow 採択 (申請額どおり)

※審査委員 13 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	5.8
	② ひろく不特定かつ多数のための利益増進のものとなっている	6.2
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえている	5.4
	④ 市民ニーズに対応する解決策として有効なものとなっている	6.2
実現性	⑤ 計画や予算が具体的で、事業の実施手段や体制などが合理的である	8.1
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	8.8
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性が期待できる	6.5
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	7.3
費用の妥当性	⑨ 事業の内容・規模に合った予算になっている	6.9
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	6.9
合 計		68.1

● 14. 「やりたいことをやらなくちゃ」プロジェクト/Hiramaru

【質疑応答 (抜粋)】

Q: 「弘前だから〇〇できない」と感じた実体験があれば教えていただきたい。

A: 就職活動での体験だが、弘前には実際に働いている人の話を聞く場やキャリア系のイベントが少ないと感じた。東京などでは、働いている大人が「仕事バー」という場でバーテンダーになり、お客さんと仕事の話をする場があったりキャリア系のトークショーがあったりする。このようなことが弘前でもできれば、と思い今回のイベントを考えた。

Q: 7割の学生が「弘前だから〇〇できない」と感じているというヒアリングの結果に対し、収容人数100人の会場では小さいような印象を受けたが、会場の選定理由を教えてください。

A: このようなイベントを開催しても、参加してみようと積極的に行動してくれる人が少ない印象があることや、大学の放課後に時間を設定していることから100人という人数を想定し、八甲田ホールなら100人収容できるということだった。また、講演会後に、

講演会の映像を youtube や ustream などに公開し、その場にいなかった人たちにも広く情報を共有してもらえようとする予定である。

【主な意見】

- ・事業を継続していく中で、学外の一般の市民も興味があつて聞きたいという人がいると思うので、弘前大学にこだわらず、広い会場を選定するなど、少し事業を練り上げていただきたい。
- ・今の社会では、早い段階からキャリア形成し、自分の将来の目的を定めていくことが必要だと思われるので、高校生など若い世代も巻き込んでいていただきたい。
- ・このようなキャリア形成のための事業は大学側が取り組むのが一番早いのかもかもしれないが、学生が1%システムに申請してきているという流れから、今後若年層を取り込むんでいけるようになれば、地域にとって大きなメリットになると思う。

【採択結果】

合計点 63.1 点 \geq 60.0 点 \Rightarrow 採択 (申請額どおり)

※審査委員 13 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	4.6
	② ひろく不特定かつ多数のための利益増進のものとなっている	6.2
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえている	7.3
	④ 市民ニーズに対応する解決策として有効なものとなっている	6.5
実現性	⑤ 計画や予算が具体的で、事業の実施手段や体制などが合理的である	5.8
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	7.7
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性が期待できる	6.5
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	6.5
費用の妥当性	⑨ 事業の内容・規模に合った予算になっている	6.9
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	5.0
合計		63.1

● 5 : 弘前市民による地域包括ケア実現のための研修会

みんなでつくる地域包括ケアの街～ひとりひとりの「生きる」を大事にしよう～／

ひろさきナラティブ.net

【質疑応答 (抜粋)】

Q : この事業で解決したいことはどのようなことかを詳しく教えていただきたい。

A : 自助・共助・公助のうち、公助は社会保障のために税金が多く使われるので、公助にだけ頼るのではなく、自分でどのように暮らしていくかを選んで生きていくことを目的と

して考えている。昔は、地域に「おせっかい」のような共助がよくあったと思うが、このおせっかいを生み出すような事業にしたい。地域のおせっかいを増やしていき、小さなコミュニティの中でたくさんの助け合いが生まれると、持続的に暮らしていける地域を作っていけるということを啓発していきたい。

Q：この事業で意識啓発がなされた市民が、今後どのような活動を展開していけばいいと考えているか。

A：小さなところから、例えば地域の事業に参加をすることから地域づくりになるということであれば、それほど意識が高くない人にも気づいてもらえると思う。隣の家のカーテンがずっと閉まっていることを疑問に思って声掛けをすることが包括ケアにつながっていく。このような「おせっかい」の頻度が高まり、自助グループが作られているというケースが他地域でも見られる。

Q：本来は行政が実施すべき事業と捉えているか。

A：トップダウンで行政にやってもらうことと、ボトムアップで私たちが提案したものに対し行政が手伝ってくれる、ということでは少し意味が違うと思う。市民側から提案してやることの方が、市民にとっても浸透しやすいと考えている。

【主な意見】

- ・「おせっかい」の延長線上でなければ自助や共助は生まれないということから実施する事業であり、テーマとしては非常に緊急性・必要性が高いと思われる。
- ・このような事業は、現在介護をしている人は手いっぱいに参加する余裕はないと思うので、はじめは参加者が専門職だけになるかもしれないが、近所に介護で大変な家があるのでどこまで手を貸していいかわからない、おせっかいができない人を対象にするなどの工夫ができれば、今後行政が手伝っていけるような事業になるのではないかと考えている。
- ・市民に、自分たちは福祉を受ける立場でありながら、逆に支える立場でもあることを再認識してもらう事業であり、このような分野に関心のない人たちに関心を持ってもらいながら、支える立場の意識づけができれば、今後面白い事業展開になっていくと感じた。

【採択結果】

合計点 85.0 点 \geq 60.0 点 \Rightarrow 採択（申請額どおり）

※審査委員 13 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	8.8
	② ひろく不特定かつ多数のための利益増進のものとなっている	8.5
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえている	8.8
	④ 市民ニーズに対応する解決策として有効なものとなっている	8.1
実現性	⑤ 計画や予算が具体的で、事業の実施手段や体制などが合理的である	7.7
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	9.2
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性が期待できる	7.7
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	8.1
費用の妥当性	⑨ 事業の内容・規模に合った予算になっている	8.8
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	9.2
合 計		85.0

● 10：組ねふた制作技能継承事業—組ねふたを見直そう—／弘前組ねふた参加団体協議会
【質疑応答（抜粋）】

Q：組ねふたの制作技術を掲載したマニュアルの編集などの作業は委託するのか。

A：編集等は団体の構成員と印刷業者と一緒にやる。印刷業者の方はプロなので、デザイン等の面で助言をもらう予定である。

Q：技術継承のためにマニュアルを作るという試みは初めてか。

A：マニュアルは以前にも作られたことはあるが、やはりこれまで組ねふたを作ってきた団体にはちょっとしたノウハウがあり、これがわからないと作成に苦労することがわかった。また、今は結束バンドや針金など高性能なものがあり、それらを使うことで骨組みが楽に作ることができるので、そのような今の技術を入れ込んだ新しいタイプのマニュアルを作りたい。

Q：組ねふたの制作技能が普及した将来としては、弘前の組ねふたが単に扇から形が変わるだけなのか、それとも制作から運行までの流れは変わっていくと想定されているか。

A：本来は地域のための組ねふただったはずが、現在は、町会が高齢化が進んだこともあり、若い人が作る愛好会の勢いがある。しかし、組ねふたを作ることによって、作成期間が長くなることや公民館など地域の施設を使用する作業が増えることもあり、町会の方にひき返るような、昔に戻るようなイメージを持っている。

Q：マニュアルを作成することで、今後組ねふたを作成する団体が増える可能性はあるか。

A：間違いなく増えると思う。作ってみたいくてもどのように作るのか、どれくらい時間がかかるのかがわからない不安から一歩踏み出せない団体があると思う。このようにマニュアル化することで、自分たちもできるというスタートになると考えている。

【主な意見】

- ・五所川原の立佞武多のように、一旦途切れたものをもう一度手探りで復活させることは非常に難しいので、記録を残すという点から、このような事業は必要である。
- ・子ども会などの活動が活発ではない地域がある中で、どこの町会でもねふたを通しての多世代交流は上手くいっているように感じる。ねふた小屋を常に持っていて、組ねふたを作る団体が増えていけば、地域の文化が残っていくし、もう一度地域コミュニティでねふたを運行するようになれば、今年発生したような事故が減るのではないかと思う。

【採択結果】

合計点 92.7 点 \geq 60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 13 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	9.2
	② ひろく不特定かつ多数のための利益増進のものとなっている	9.6
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえている	8.8
	④ 市民ニーズに対応する解決策として有効なものとなっている	8.5
実現性	⑤ 計画や予算が具体的で、事業の実施手段や体制などが合理的である	9.2
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	9.6
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性が期待できる	8.5
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	10.0
費用の妥当性	⑨ 事業の内容・規模に合った予算になっている	9.2
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	10.0
合計		92.7

● 6：岩木山南麓豪雪まつり／岩木山観光協会

【質疑応答（抜粋）】

Q：継続3年目で、あと2年続けて申請したいとのことだが、自助努力で何か行っていることはあるか。

A：岩木山観光協会として経費的な面で自助努力していることはないが、この事業にはさまざまな団体が参加しており、これから参加団体が増えれば増えるほど、全体の経費が大きくなる。各団体でこの事業に参加するための経費をもっていたり、人手を出してくれたりしている団体もある。今後、温泉施設が参加し、地域に経済効果があるような形になり、協議会のような団体を作ることができれば、補助金をもらわなくても事業を行っていくことができると考えている。

Q：豪雪まつりに参加した市民が、来年も行こうと思うような仕組み等は考えているか。

A：冬季は嶽や百沢の旅館やお店が営業していないと思っている人も多く、迎え入れる側の体制も整っていない状態のため、迎え入れる側も自助努力し、とにかく地域内を明るい雰囲気にしなければならないと思う。現在「観光と健康」という方針で、山歩きをする人をターゲットに、豪雪まつりでもノルディックウォークを強化する予定である。また、広告宣伝により力を入れ、どんどん山に来てもらえるような体制を作っている段階である。

【主な意見】

- ・観光に関する広告媒体に掲載してもらするなどしながら事業を展開していくことで、他県からの観光客も参加するようになると思うので、継続して実施していただきたい。
- ・継続3年目の事業なので、地元の人たちが活気づいているかどうかなど、事業そのものが有効に働いているかを確認しなければならないと思う。

【採択結果】

合計点 72.7 点 \geq 60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 13 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	8.1
	② ひろく不特定かつ多数のための利益増進のものとなっている	6.5
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえている	8.1
	④ 市民ニーズに対応する解決策として有効なものとなっている	6.5
実現性	⑤ 計画や予算が具体的で、事業の実施手段や体制などが合理的である	5.4
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	8.8
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性が期待できる	7.7
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	6.9
費用の妥当性	⑨ 事業の内容・規模に合った予算になっている	6.5
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	8.1
合計		72.7

9月21日審査結果（16事業のうち7事業）

採択とする事業 7事業

不採択とする事業 0事業

平成26年度第2回弘前市まちづくり1%システム審査委員会 会議録概要（3日目）

日 時：平成26年9月22日（月）

午後6時～午後9時2分

場 所：市民参画センター3階グループ活動室

出席者：審査委員 檜楨委員長、島委員、鴻野委員、齋藤（秀）委員、清藤委員、
西川委員、小友委員、高森委員、木田（直）委員、木田（多）委員、
工藤委員、長内委員、小林委員
※2名欠席（齋藤（き）委員、宮川委員）
市民協働政策課 大澤課長、三上補佐、白戸主幹、櫻庭係長、對馬主査、阿保主事
齋藤主事、成田主事

1 公開プレゼンテーション・審査会 9月20日、21日に引き続き審査

《審査内容》

●15：過疎地域スポーツ推進事業／特定非営利活動法人 スポネット弘前

【質疑応答（抜粋）】

Q：対象となる小学校のエリアがかなり広いが、子どもたちの送迎は行う予定か。

A：今年はまだ送迎の準備ができていないが、対象となる全ての学校でアンケートを取る予定である。保護者だけで全てまかなうのは難しいので、地域の人たちに送迎の手伝いを協力してもらうなど、来年度の4月までに方針を決めたい。またエリアが広いので、将来的に開催場所を二か所または三か所に分ける必要もあるかもしれない。アンケートの結果を踏まえて、ニーズに応えられるように対応したい。

Q：来年は、1%システムに申請せずに事業を継続する予定だが、事業を実施するためにどのようなことを考えているか。

A：参加者側に受益者負担ということをきちんと意識してもらえるよう、事業を行っていきたいと思う。今年度は1%システムを活用して、どのような人が集まるか、送迎の問題をどのように解決するか、来年度のプログラムをどうするかなどを見極めたい。子どもたちがスポーツをしてみたいと思ったときに、スポーツできる環境がないのはおかしいと思うので、その辺をしっかりやっていきたい。

Q：子どもたちが減少してきている郊外地域で、子どもたちがスポーツする環境が成り立たない状況になってきているが、現状をこのまま放っておくことは出来ないという思いでこの事業を申請したと考えてよいか。

A：送迎などさまざまな問題が出てきたとき、問題があるからこの事業を実施しないとい

うことではない。スポーツ＝競技型のスポーツではなく、楽しむためや健康のためなど、誰もがスポーツをする権利があるということを子どものうちから伝えていく意味では大事な事業だと思う。週に1回でもスポーツを楽しむ場を作っていくことが団体の理念だと考えているので、この事業を頑張って進めていきたい。

【主な意見】

- ・テレビ等でスポーツ中継を見る機会はあるが、この地域の子どもたちはスポーツをする機会が限られている。機会が提供されることで、子どもたちの個性が発揮できる場ができてくると思う。
- ・小学生のスポーツ活動は小学校の先生ではなく保護者が監督するようになった状況を少しでも打破しようという事業なので、一番問題になるであろう送迎の工夫や会費の設定などを上手く考えて、事業を継続していただきたい。
- ・同じような状況の地域があると思うので、このような事業を必要としているほかの地域にも手本になるような事業になって欲しい。

【採択結果】

合計点 90.4点 \geq 60.0点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 13名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	7.7
	② ひろく不特定かつ多数のための利益増進のものとなっている	8.8
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえている	9.6
	④ 市民ニーズに対応する解決策として有効なものとなっている	8.8
実現性	⑤ 計画や予算が具体的で、事業の実施手段や体制などが合理的である	9.2
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	8.5
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性が期待できる	9.6
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	9.2
費用の妥当性	⑨ 事業の内容・規模に合った予算になっている	9.2
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	9.6
合計		90.4

● 16：弘前シェークスピア上演会／稔町町会

【質疑応答（抜粋）】

Q：音楽劇の上演だが、著作権などは確認済みか。

A：著作権料がかからないように精査中である。劇を制作する上で、必ず効果と費用の問題が出てくるが、それを加味しながら観客に楽しんでもらえるように作っていきたい。

Q：町会の事業として実施するものだが、町会からの負担についてどのようになっているのか。

A：町会の総会が終わってから新たに増えた事業のため、この事業に対する予算を立てることは出来なかった。そのため、町会負担として収支予算書には見えてきていない。

Q：町会が町会内にある大学に協力を依頼し、地元住民がその演劇に参加するという新しいスタイルが発信されるのはすごく素敵なことである。町会が主催で大学の協力を得て、本来ありえないようなキャスティングに町民が参加し、それを市民も見ることができるといふ事業の内容ということではよろしいか。

A：そのとおり。

【主な意見】

- ・町会が、弘前全域に文化振興を広めるといふおもしろい試みであるが、町会住民や学生以外の鑑賞できる人数に限りがあり、受益者が一部の市民に限定される懸念がある。
- ・町会が主体なので、役員会に諮って町会も多少の負担はするという姿勢や町内会員へのメリットが必要だと思う。しかし、今後事業を続けていくことができれば、新しいウェーブになるのではないかと思う。
- ・この事業を行うことで大学と町会のつながりができ、音楽劇だけでなく、生活の一部に町会と大学が協働していけるようになってほしい。
- ・この事業は、町会のためではなくむしろ弘前全体のためという捉え方もできる。

【採択結果】

合計点 59.6 点 <60.0 点 ⇒不採択

※審査委員 12 名で審査採点（木田（多）委員は審査から外れる）

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	5.8
	② ひろく不特定かつ多数のための利益増進のものとなっている	5.0
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえている	5.4
	④ 市民ニーズに対応する解決策として有効なものとなっている	5.0
実現性	⑤ 計画や予算が具体的で、事業の実施手段や体制などが合理的である	6.3
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	7.9
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性が期待できる	7.1
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	7.1
費用の妥当性	⑨ 事業の内容・規模に合った予算になっている	5.0
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	5.0
合 計		59.6

● 3：青年団リンク ホエイ「珈琲法要」弘前公演実施事業／弘前は珈琲の街です委員会
【質疑応答（抜粋）】

Q：「りんごのまち弘前」というのと「珈琲の街弘前」というのでは、全く印象が違うように感じるが、この事業がどの程度市民のニーズに応えていると考えているか。

A：弘前は人口に対して喫茶店が多い街であり、コーヒーの消費量も多いが、喫茶店を守りながら、おいしいコーヒーを飲みたいという気持ちが強い市民が多いと思う。しかし、一方で家や職場などでもコーヒーを飲む機会が増えている。コーヒーの飲み方が多様化する中で、どのようにコーヒーを捉えていくかを考えるために、市民のパワーを入れながら活動していきたいと考えている。そのきっかけとして、今回の公演を考えた。

Q：公演事業を市民の方が見られなかったときの対応として考えていることはあるか。

A：1回100人ほど収容できる会場で3回公演を行う。弘前市にはコーヒーの愛好者がたくさんいるので、今年だけでは見てもらいたい人全員に見てもらうことはできない。3人のみで演じられるコンパクトな舞台なので、毎年あるいは隔年で行い市民に見てもらいたい。

Q：今までの活動がある程度熟しており、この公演事業を行うことが一押しになり、活動が広がっていく可能性はあるか。

A：まだその段階まできているとは感じていない。これまでの活動でコーヒーの味や喫茶店を知ってもらう機会は作ってきたので、今回の事業では、コーヒーの歴史やコーヒー一杯の大切さを知ってもらいたい。

【主な意見】

- ・弘前をアピールするものとして、りんごが一番に挙げられる。しかし、弘前は「りんごの街」だけではなく、例えば「フランス料理の街」や「洋館の街」など、いくつもの要素を絡めて、少しでもアピールしていこうとしている。「珈琲の街」も弘前をアピールする一つの要素だと思う。
- ・演者等の出演料や交通費がかなりかかっている点は気になるが、できるだけ多くの市民に見てもらって、コーヒー文化を普及したいということだと思う。

【採択結果】

合計点 70.4 点 \geq 60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 13 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	6.9
	② ひろく不特定かつ多数のための利益増進のものとなっている	6.5
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえている	6.5
	④ 市民ニーズに対応する解決策として有効なものとなっている	6.2
実現性	⑤ 計画や予算が具体的で、事業の実施手段や体制などが合理的である	7.7
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	8.1
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性が期待できる	7.3
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	7.3
費用の妥当性	⑨ 事業の内容・規模に合った予算になっている	7.3
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	6.5
合計		70.4

● 12. 福祉と暮らしの相談会～多職種ネットワークによる相談会～

／一般社団法人権利擁護あおい森ねっと

【質疑応答（抜粋）】

Q：昨年度の相談会では、ワンストップで解決できた相談はあるか。

A：その場で解決できたものも結構ある。社会福祉士と弁護士で結果が違うこともあるが、ペアになって相談を受けることで、お互いに話しながら落としどころを見つけて解決できることがある。相談会を専門分野ごとに別々でやると答えが異なり、相談者が悩むことがあるので、福祉と司法が一緒に相談を受けることは大きな成果だと考える。

Q：4年目の継続事業だが、今回事業費が減っているのはなぜか。

A：今まで講演会やマニュアルのパンフレット作りに係る費用を予算計上していたが、今回は相談会のみを経費のため、予算が減っている。これまで行ってきた講演会などは、自

主財源で行うことにした。

【主な意見】

- ・一般の人が専門職のところに相談等をしに行くのは非常に敷居が高いと思う。そのため、このような相談会には切羽詰って参加する人が多いと思うので、ぜひ継続して行ってほしい。
- ・相談を受ける際、社会福祉士と法律関係者などがペアになっていることで、問題解決への導きが早くなるのがこの事業の良い点だと思う。相談する場所がなく、行きどころがない人も多いと思うので、年に1回ではなく、もう少し頻繁に相談会を開催してほしいと思う。
- ・これまで受けてきた相談の事案をきちんと積み重ねて、今後似たようなケースが出てきたときに、ネットワークを生かして効率よく解決につなげていただきたい。

【採択結果】

合計点 89.2 点 \geq 60.0 点 \Rightarrow 採択（申請額どおり）

※審査委員 13 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	9.2
	② ひろく不特定かつ多数のための利益増進のものとなっている	8.1
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえている	9.2
	④ 市民ニーズに対応する解決策として有効なものとなっている	9.2
実現性	⑤ 計画や予算が具体的で、事業の実施手段や体制などが合理的である	8.8
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	9.2
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性が期待できる	8.8
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	8.5
費用の妥当性	⑨ 事業の内容・規模に合った予算になっている	9.2
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	8.8
合 計		89.2

9月22日審査結果（16事業のうち4事業）

採択とする事業	3事業
不採択とする事業	1事業

3次募集事業の審査結果（16事業）9月20日～22日審査合計

採択とする事業	15事業
不採択とする事業	1事業